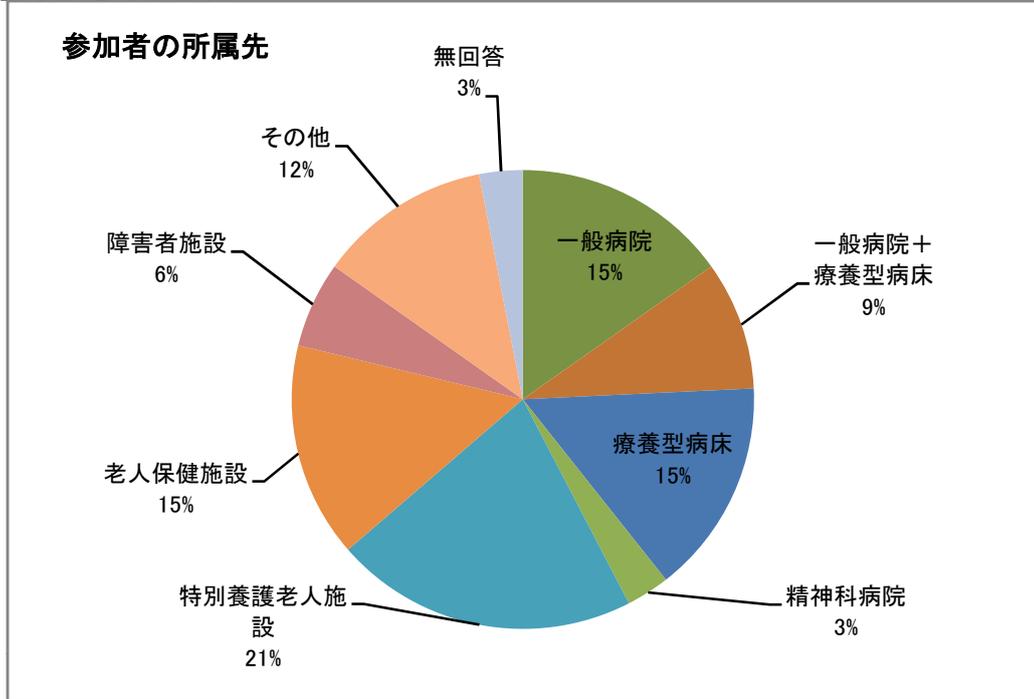


PDNセミナー・アンケート結果

平成19年11月17日
(サンプル数33)

I. 参加者のプロフィール

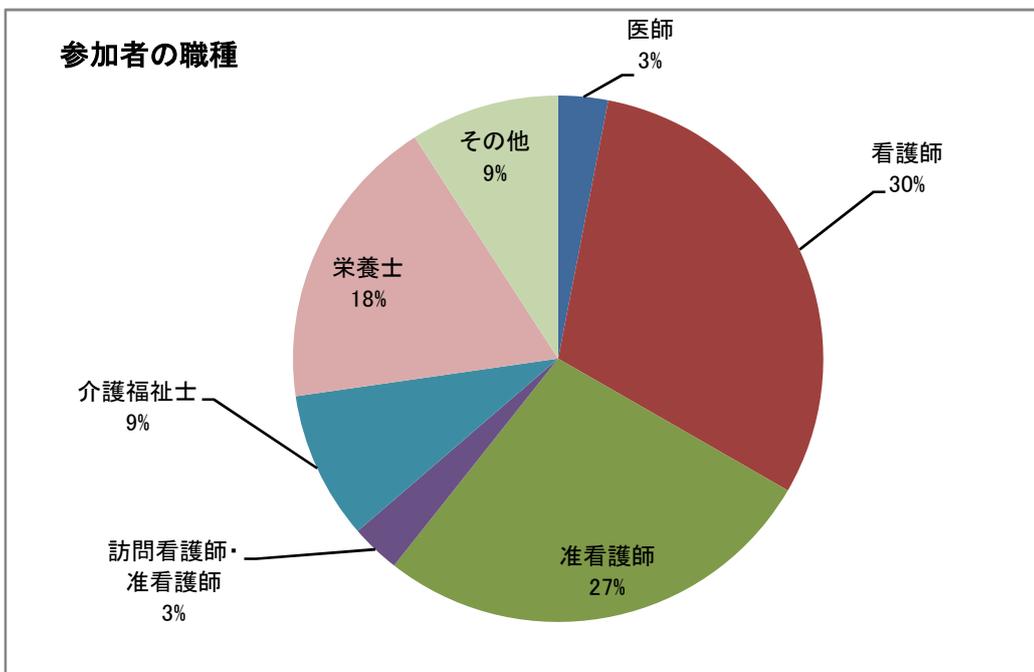
■参加者の所属先



その他: デイサービスセンター、歯科医院(診療所)

N=33

■参加者の職種



その他: 歯科医師、歯科衛生士

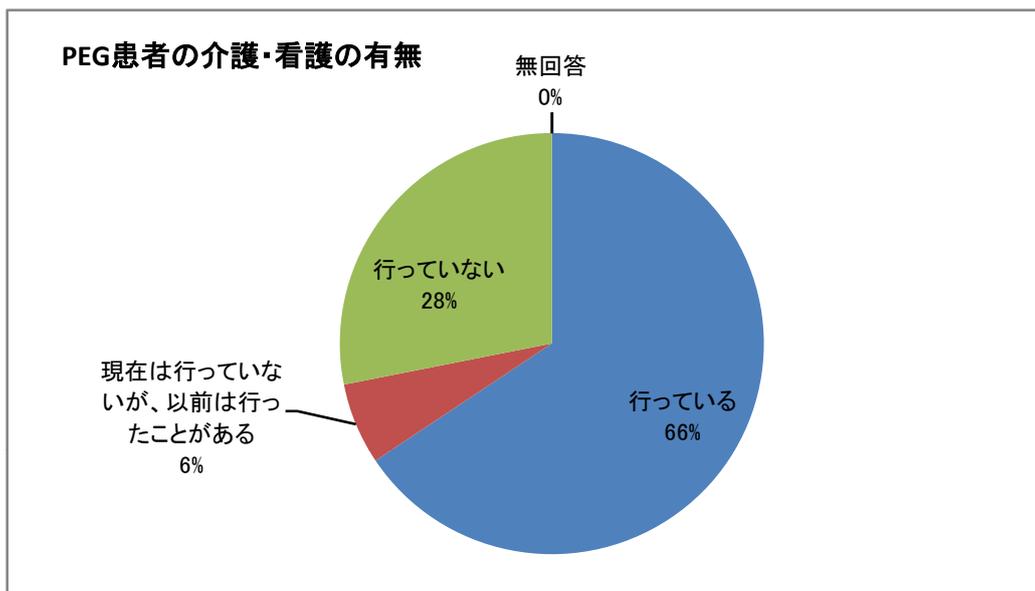
N=33

■ 所属先の所在地

N=33

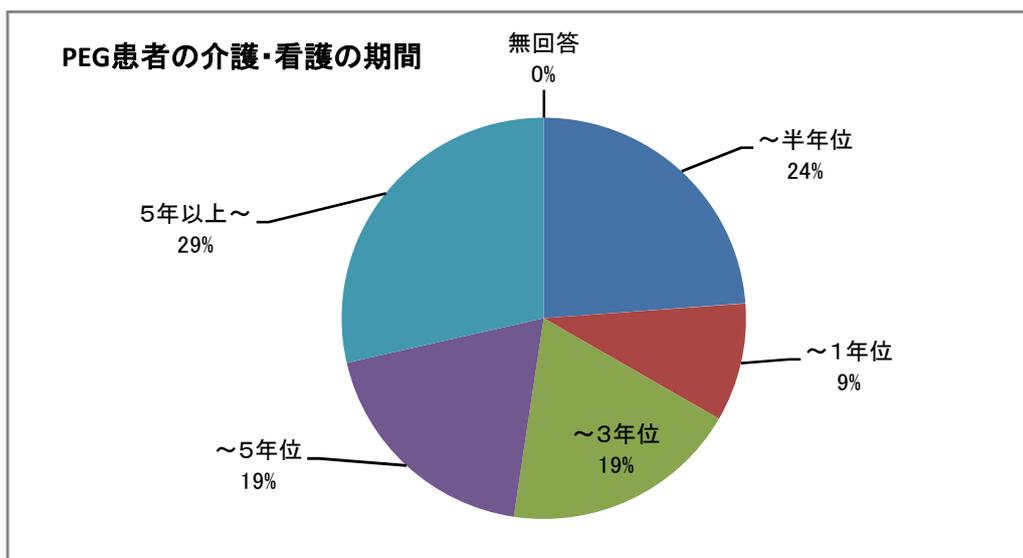
市、郡	長門市	萩市	山口県のみ	その他	合計
人数	17	10	4	2	33
%	51.5%	30.3%	12.1%	6.1%	100%

■ PEG患者の介護・看護の有無(医師以外の参加者について)



N=32

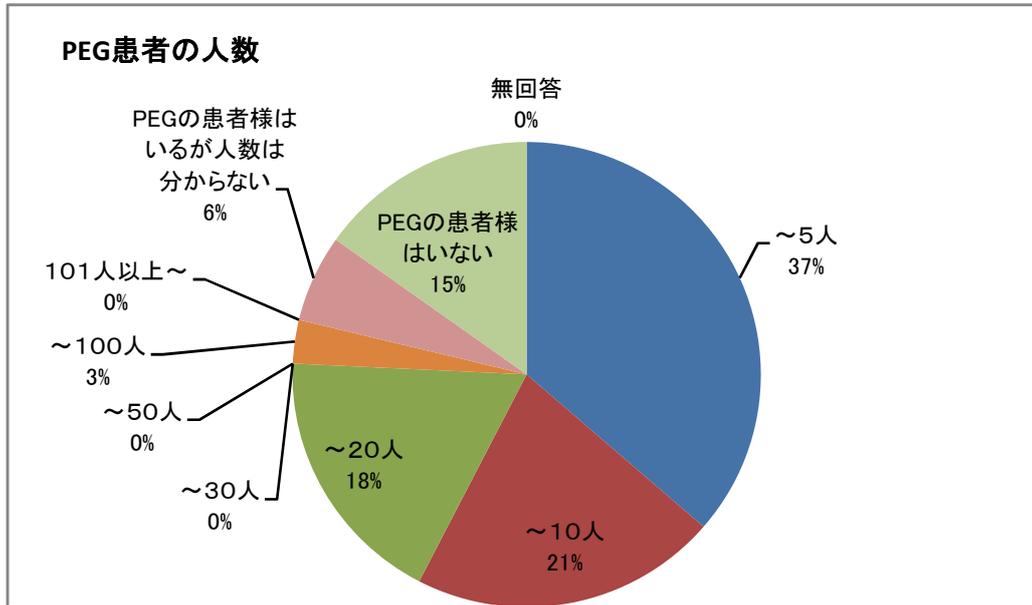
■ PEG介護・看護の期間(看護・介護を行っている人について)



N=21

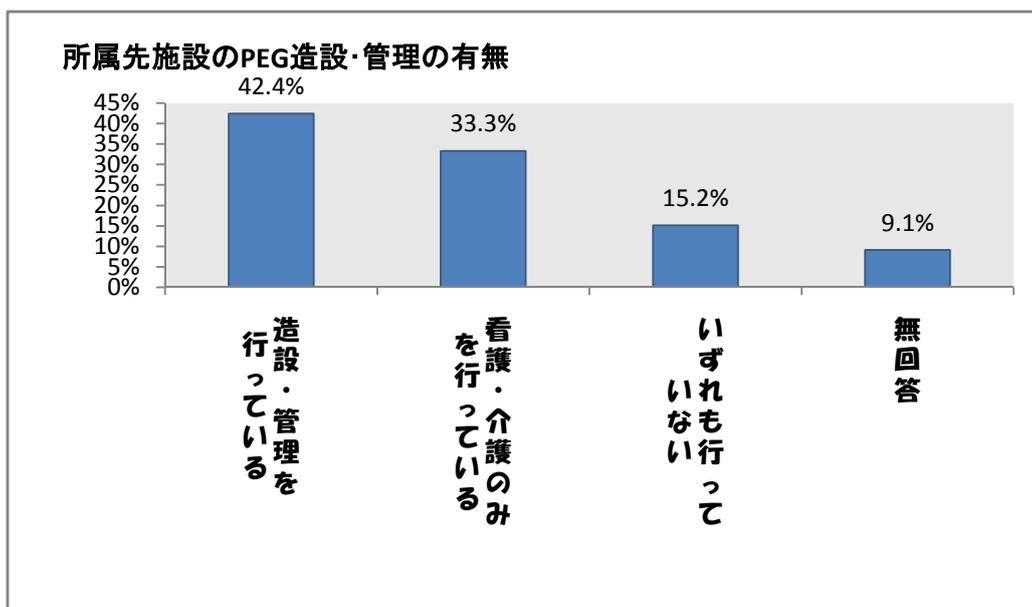
II. 所属先施設のPEGの現状

■ 所属先施設のPEG患者の人数



N=33

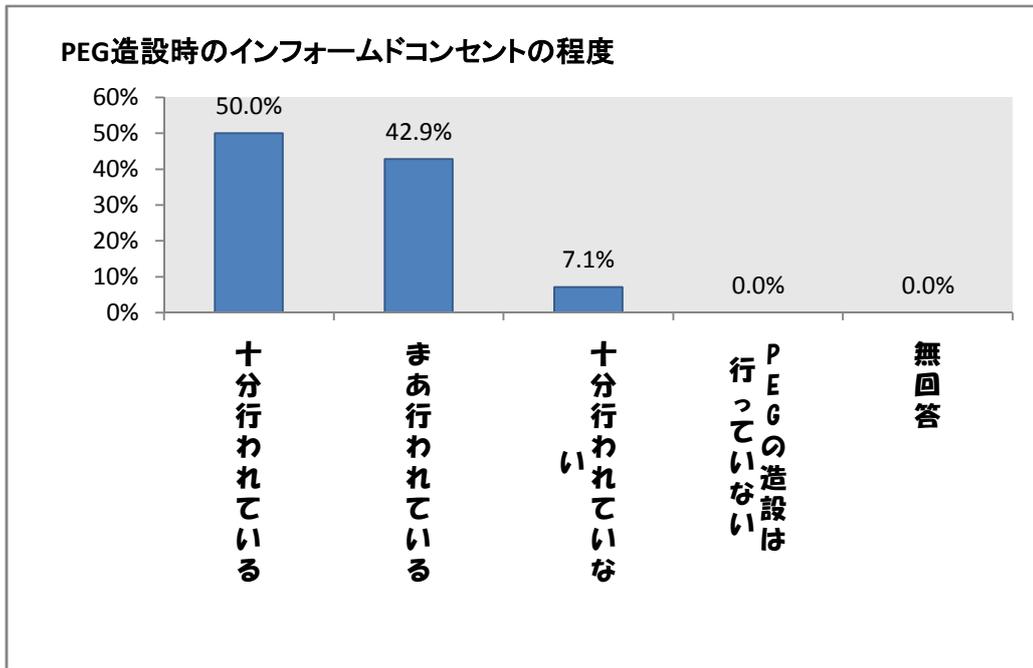
■ 所属先施設のPEG造設・管理の有無



N=33

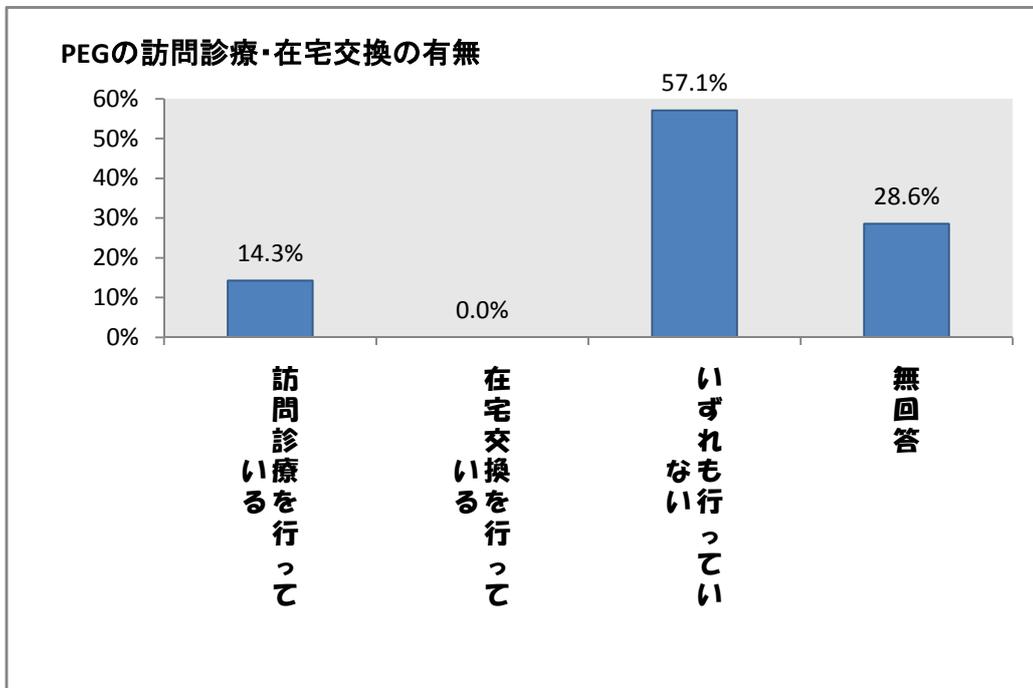
■PEG造設時のインフォームドコンセントの程度

(所属先がPEGの造設・管理を行っている参加者について)



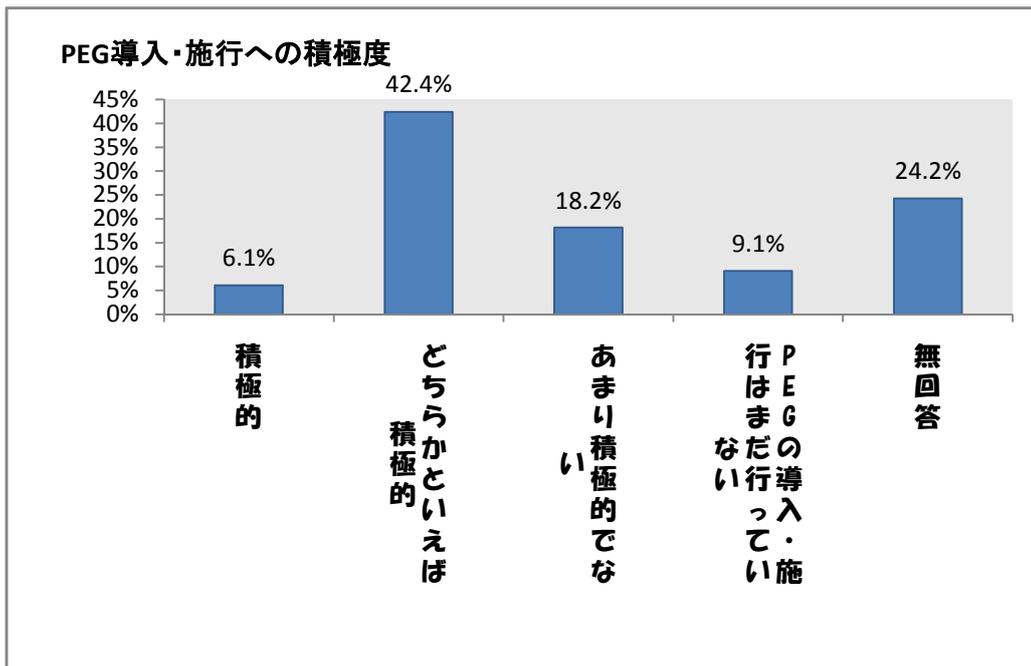
N=14

■所属先施設のPEGの訪問診療・在宅交換の有無



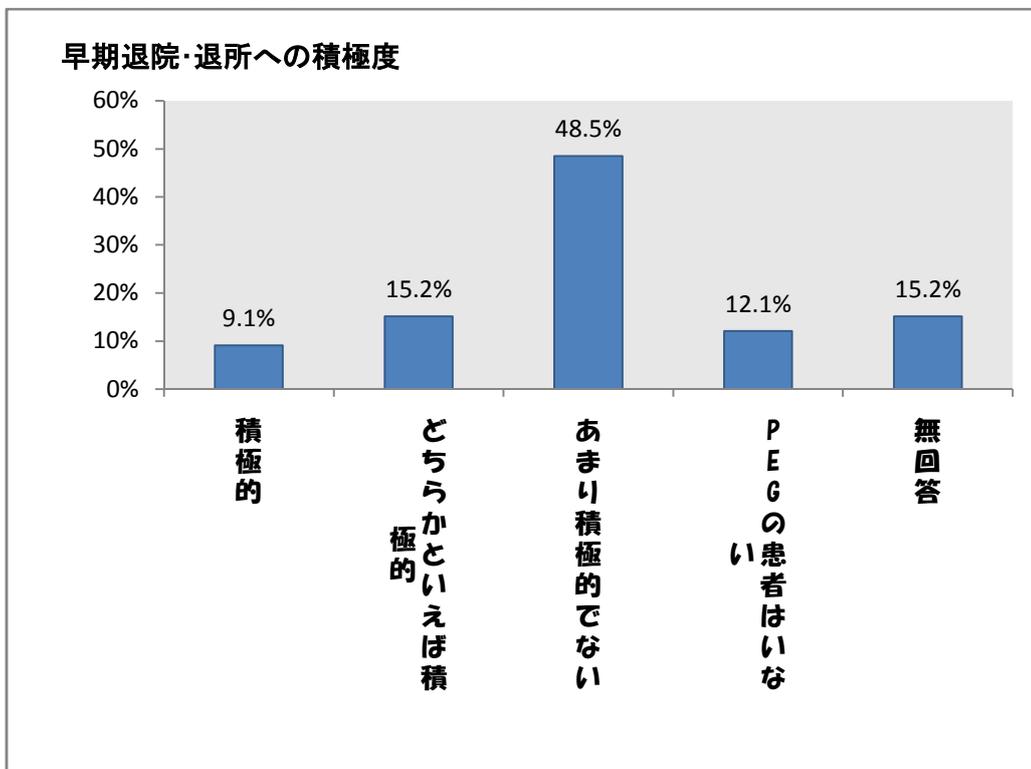
N=14

■所属先施設のPEG導入・施行への積極度



N=33

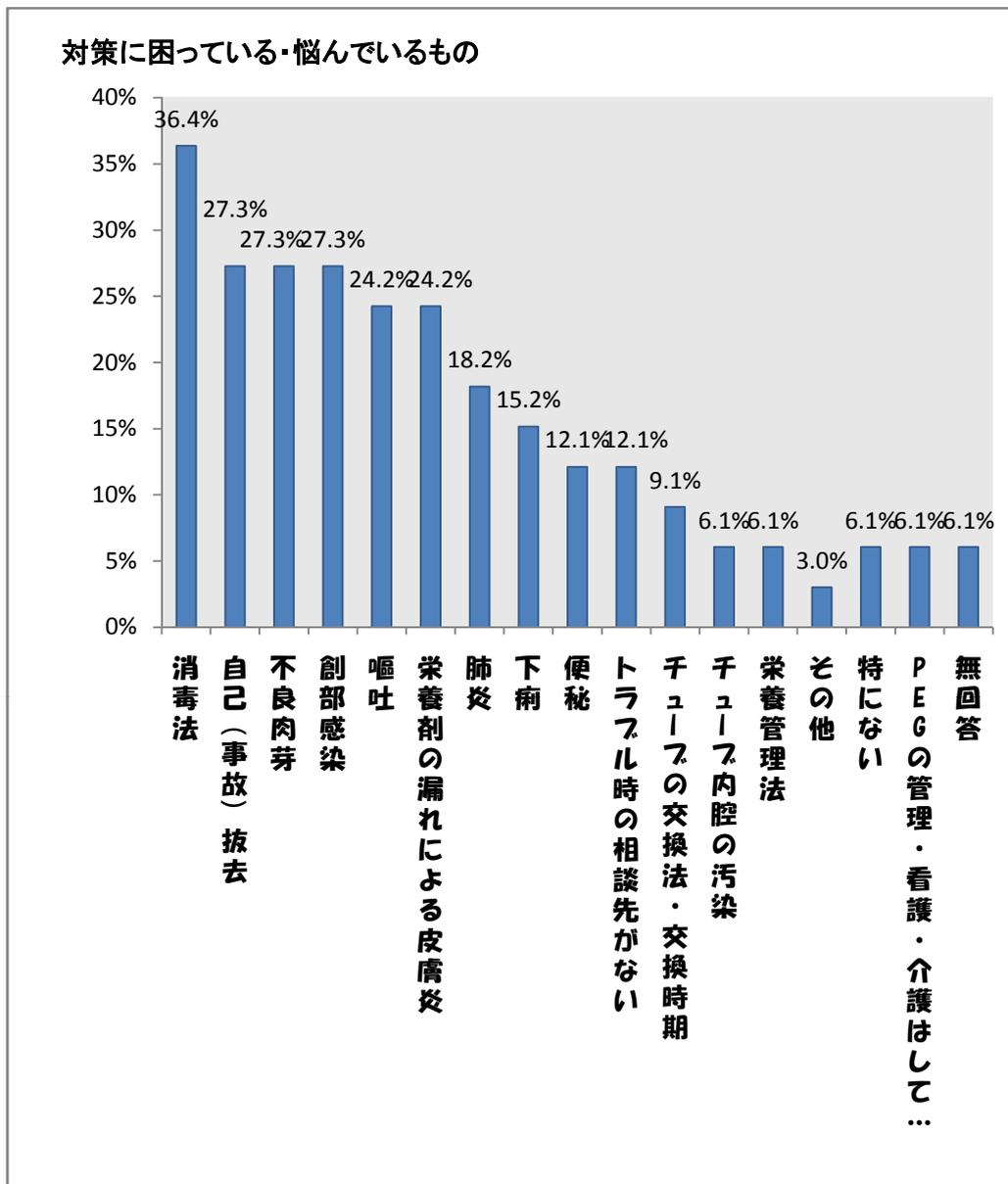
■所属先施設の早期退院・退所への積極度



N=33

Ⅲ. PEGの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるもの(複数回答可)

■ 対策に困っている・悩んでいるもの

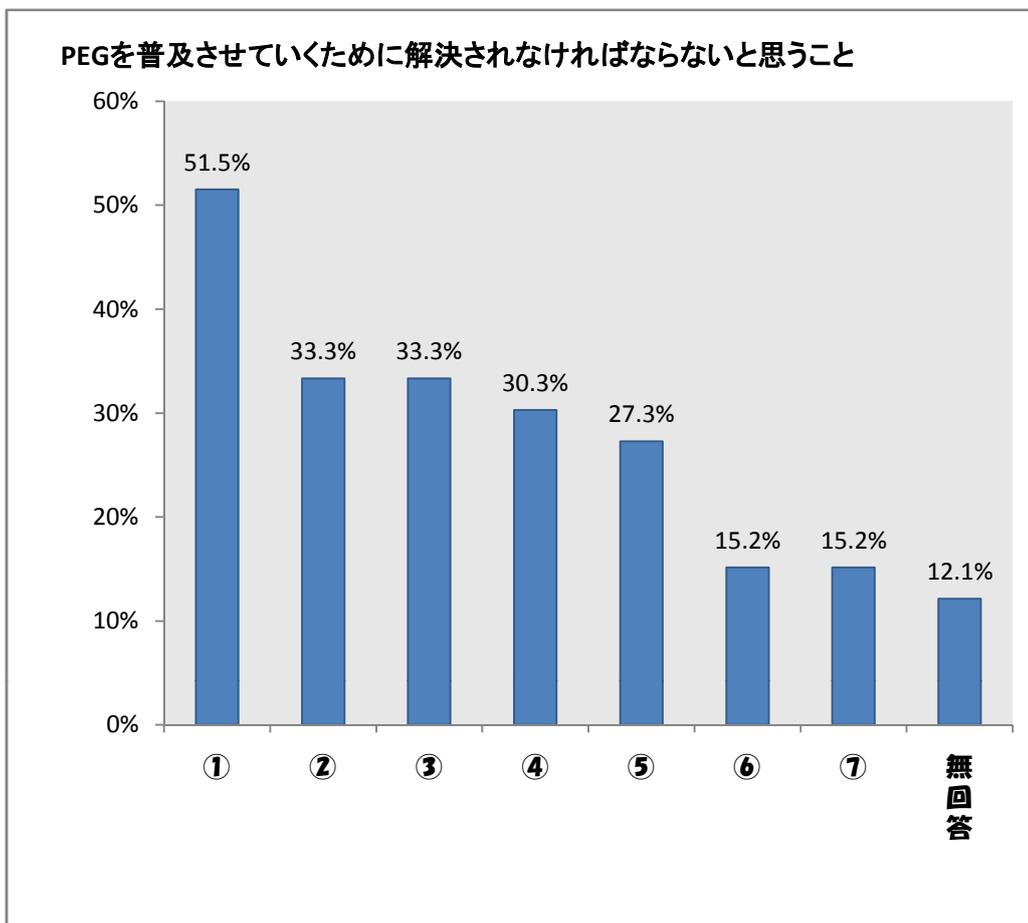


N=33

その他: だ液の逆流、ボタン式のシャフト長の選択

IV. PEGをもっと普及させていくために、解決されなければならないと思うこと。
(3つだけあげてもらった複数回答)

■PEGを普及させていくために解決されなければならないと思うこと



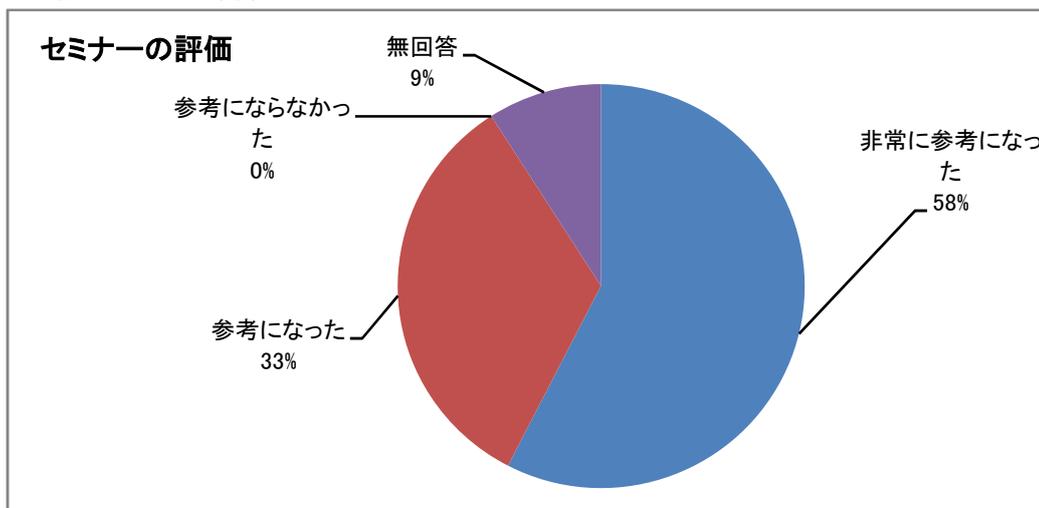
N=33

①	PEGについての勉強会の充実。(PEGの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など)	51.5%
②	PEGの手技・管理の標準化。(手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化)	33.3%
③	造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。	33.3%
④	食べられなくなれば即PEGというのではなく、PEG本来の「役割」をいま一度考え直してみること。	30.3%
⑤	一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPR活動の充実	27.3%
⑥	専門医や専門看護師の育成。(造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など)	15.2%
⑦	PEGの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。	15.2%

無回答 12.1%

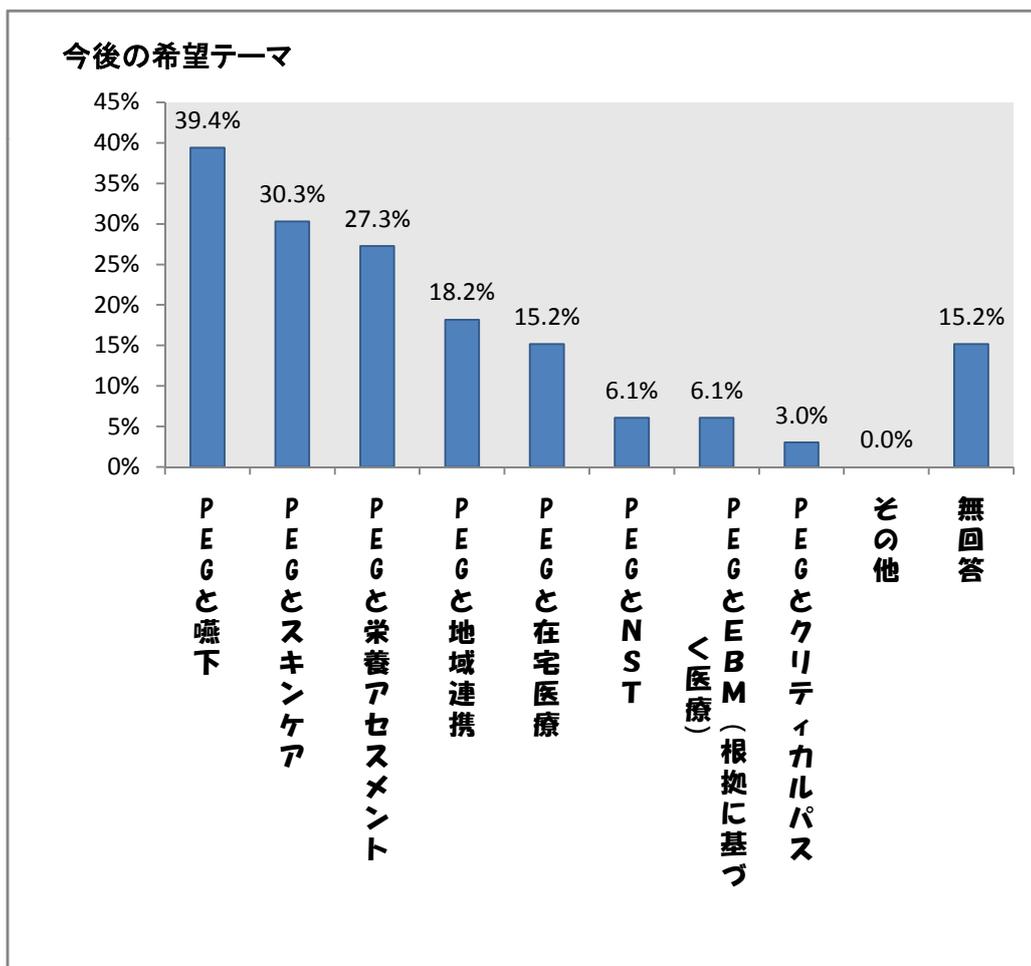
V. 今回のセミナーの評価と、今後のセミナーの希望テーマ

■ 今回のセミナー評価



N=33

■ 今後のセミナーの希望テーマ。(複数回答)



N=33

VI. 自由回答意見

問. PEGの普及やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。
忌憚のないご意見をお聞かせください。

- ・ 家族がPEGを造設する可能性があるので参考になりました。(歯科医院・歯科医師)
- ・ たいへん勉強になりました。(療養型病床・訪問看護師)

PDNセミナーアンケート

回収サンプル数：33

回答番号：回答内容：実数

Q1. あなたの所属先は？（ひとつだけ）

(1)一般診療所（無床）：0(2)一般診療所（有床）：0(3)一般病院：5(4)特定機能病院：0(5)地域医療支援病院：0(6)一般病院＋療養型病床：3(7)療養型病床：5(8)脳神経外科病院：0(9)精神科病院：1(10)リハビリテーション病院：0(11)特別養護老人施設：7(12)老人保健施設：5(13)有料老人施設：0(14)障害者施設：2(15)訪問看護ステーション：0(16)居宅支援事業所：0(17)在宅介護老人支援センター：0(18)その他：4 無回答：4

Q2. あなたは次のどれにあたりますか？（ひとつだけ）

(1)医師：1(2)看護師：10(3)准看護師：9(4)訪問看護師・准看護師：1(5)介護福祉士：3(6)作業療法士：0(7)理学療法士：0(8)社会福祉士：0(9)臨床心理士：0(10)言語聴覚士：0(11)介護支援専門員：0(12)訪問介護員（ホームヘルパー）：0(13)薬剤師：0(14)栄養士：6(15)その他：3 無回答：0

〔医師以外の参加者に対して N=32〕

Q3. あなたは、現在、PEGの患者様の看護・介護を行っていますか？（ひとつだけ）

(1)行っている：21 (2)現在は行っていないが、以前は行ったことがある：2
(3)行っていない：9 無回答：0

N=21

Q4. PEGの看護・介護を行うようになってから何年位になりますか？（ひとつだけ）

(1)半年位：5(2)～1年位：2(3)～3年位：4(4)～5年位：4(5)5年以上～：6 無回答：0

〔医師に対して N=1〕

Q5. 先生のご担当診療科目は？（いくつでも）

(1)外科：0(2)内科：1(3)内視鏡科：0(4)その他：0 無回答：0

Q6. 先生がPEGの施行を行うようになったのは何年位前からですか？（ひとつだけ）

(1)～2,3年位前：0(2)～5年位前：0(3)～10年位前：0(4)10年以上前～：0(5)PEGの施行は行っていない：1 無回答：0

Q7. PEGを施行した患者様の原疾患は何でしたか？（いくつでも）

(1)脳血管障害：1(2)認知症：1(3)神経疾患：0(4)呼吸器疾患：1(5)外傷：0(6)癌：0(7)その他：0(8)PEGの施行は行っていない：0 無回答：0

Q8. 腹腔内誤挿入を経験したことがありますか？（ひとつだけ）

(1)ある：0(2)ない：0(3)PEGの施行は行っていない：1 無回答：0

Q9. 貴院では、一年間に、PEGの施行を何件行っていますか？（ひとつだけ）

(1)～10件以下：0(2)～20件：0(3)～30件：1(4)～40件：0(5)～50件：0(6)51件以上～：0(7)PEGの施行は行っていない：0 無回答：0

〔以下、全員に対して N=33〕

Q10. 訪問看護・介護を含めて、御施設にはPEGの患者様は何人いらっしゃいますか？（ひとつだけ）

(1)～5人：12(2)～10人：7(3)～20人：6(4)～30人：0(5)～50人：0(6)～100人：1(7)101人以上～：0(8)PEGの患者様はいるが人数は分からない：2(9)PEGの患者様はいない：5 無回答：0

Q11. 御施設では、PEGの造設・管理を行っていますか？（ひとつだけ）

(1)造設・管理を行っている：14 (2)看護・介護のみ行っている：11
(3)いずれも行っていない：5 無回答：3

〔N=14〕

Q12. 御施設では、PEGの造設にあたって、患者さまご本人やご家族へのインフォームドコンセントが十分に行われていると思いますか？

(Q12のつづき)

(1)十分行われている:7(2)まあ行われている:6(3)十分行われていない:1(4)PEGの造設は行っていない:0 無回答:0

Q13. 御施設では、PEGの訪問診療・在宅交換を行っていますか？（いくつでも）

(1)訪問診療を行っている:2(2)在宅交換を行っている:0(3)いずれも行っていない:8 無回答:4

[N=33]

Q14. 御施設は、PEGの導入・施行に積極的ですか？（ひとつだけ）

(1)積極的:2(2)どちらかといえば積極的:14(3)あまり積極的でない:6(4)PEGの導入・施行はまだ行っていない:3 無回答:8

Q15. 御施設は、PEGの造設後に積極的なリハビリを行うなど早期退院・退所に心掛けていますか？（ひとつだけ）

(1)積極的:3(2)どちらかといえば積極的:5(3)あまり積極的でない:16(4)PEGの患者はいない:4 無回答:5

Q16. PEGの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるものがありますか？（いくつでも）

(1)自己（事故）抜去:9(2)肺炎:6(3)嘔吐:8(4)下痢:5(5)便秘:4(6)栄養剤の漏れによる皮膚炎:8(7)不良肉芽:9(8)創部感染:9(9)チューブの交換法・交換時期:3(10)チューブ内腔の汚染:2(11)消毒法:12(12)栄養管理法:2(13)トラブル時の相談先がない:4(14)その他:1(15)特にない:2(16)PEGの管理・看護・介護はしていない:2 無回答:2

Q17. PEGをもっと普及させていくためには、どのようなことが解決されなければならないと思いますか。次の中から3つだけ挙げてください。（3つだけ）

① PEGについての勉強会の充実。（PEGの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など）	17 51. 5%
② PEGの手技・管理の標準化。（手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化）	11 33. 3%
③ 造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。	11 33. 3%
④ 食べられなくなれば即PEGというのではなく、PEG本来の「役割」をいま一度考え直してみることに。	10 30. 3%
⑤ 一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPR活動の充実	9 27. 3%
⑥ 専門医や専門看護者の育成。（造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など）	5 15. 2%
⑦ PEGの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。	5 15. 2%
無回答	4 12. 1%

Q18. きょうのセミナーは参考になりましたか？（ひとつだけ）

(1)非常に参考になった:19(2)参考になった:11(3)参考にならなかった:0 無回答:3

Q19. 今後のセミナーのテーマでは何を希望しますか？（いくつでも）

(1)PEGと嚥下:13(2)PEGと栄養アセスメント:9(3)PEGとスキンケア:10(4)PEGと在宅医療:5(5)PEGとN S T:2(6)PEGとクリティカルパス:1(7)PEGと地域連携:6(8)PEGとEBM（根拠に基づく医療）:2(9)その他:0 無回答:5

Q20. 所属先の所在地は？

県 市・郡

Q21. PEGの普及やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。忌憚のないご意見をお聞かせください？